社会福祉法人 水仙福祉会　会報　かぜのわ

風の輪

平成27年9月発行
第57号
社会福祉法人　水仙福祉会
〒533-0004　東淀川区小松1丁目14-12
TEL　06-6328-3786　Fax 06-6328-3833
URL　http://www.suisen.or.jp/
題字　岡村　重夫

取り組むべき3つの課題
あらためて家族支援を考える

淡路こども園園長　田代直美

成人施設から再び淡路へ

この4月、ワークセンター豊新から淡路こども園に戻ってきた。実に13年ぶりのことである。今も昔も変わらないのは、子育てに迷い悩みつつも、何とか子どものことを理解したい、関わりたいと必死で子どもを追いかけ、向き合おうとしている家族と職員の姿である。私が以前仕事をしていた頃は定員が50人だったが、今は30人なので空間的にはゆったりしているように感じる。

真剣に絵本を見る子どもたち

制度の変更に伴い、現在では児童発達支援センターとして、①児童発達支援、②保育所等訪問支援、③障害児相談支援の3事業と、淡路こども園デイサービスとして放課後等デイサービスの、計4事業を行なっている。やるべき仕事は山積しているが、まず3つの点に取り組みたいと考えている。

学齢期の支援

1つ目は、学齢期の支援を充実させたいということである。私がいた13年前には学齢期の子どもと家族を支援する制度がなかった。ここ3～4年で、放課後等デイサービスの事業所があちらこちらにでき、子どもをみる体制は一応整ってきている。複数の事業所を、曜日を変えて利用している人もいる。

子どもの全体像をつかむには、家庭と学校、デイサービス事業所等、子どもに関わる複数の機関の連携が欠かせない。この関係がうまくいっていないと、子どもの問題をこじらせることにもなりかねない。しかし、今は部分的な連携にとどまっている。

学校教育が終わった後の進路については、本人も家族も大いに悩むところである。当園も他の相談支援センター等と情報をやり取りし合い、充分に相談に乗れるように力をつけていきたい。

お母さんの望む支援を

2つ目は、育児に日々奮闘しているお母さんを応援したいということである。淡路こども園は創設以来、親子通園や、家族支援を行なってきている。支援の形はいろいろあるが、お母さん方の意見も取り入れ、お母さん自身が元気になれるような新しい形を探りたい。

主体的な職員集団に

3つ目は、若い職員がそれぞれに学んできたことや好きなこと、仕事を通して「やってみたい」と思ったこと等が実現できるように、サポートしたいということである。小さいことでも本人が主体的に取り組む姿は、一緒に働く人が勇気づけられる。主体的に仕事をする職員同士で互いに刺激し合えることが、より良い支援につながるのではないだろうか。

以上3点、「言うは易し、行なうは難し」であるが、一つずつ実現していきたい。